

リレー・フォー・ライフ川越2012 (がん患者支援チャリティーイベント)に参加して

公益委員会 星野 弘

2012年9月15日(土)・16日(日)の両日、緑にかこまれた川越水上公園芝生広場にてリレー・フォー・ライフ川越2012が開催されました。このイベントがこの地で開催されるのは今年で4回目、本会としては昨年続き2回目の参加となります。

リレー・フォー・ライフは、がん患者であるサバイバーさんやその家族・遺族・支援者のケアギバーさんと、24時間共に歩き、語らうことで生きる勇気と希望を生み出し、がんという病気に立ち向かっていく、そのような思いを込めているチャリティーイベントです。

このイベントは、1985年にアメリカ・ワシントン州のシアトル郊外で、アメリカ対がん協会のゴールドイー・クラット医師が始めたイベントです。マラソンが得意な彼が、大学の陸上競技場を24時間走り続ける中、友人たちは30分間だけ医師と一緒に回るとに25ドルずつ寄付をしました。その結果、1日で27,000ドルが集まり、対がん協会に寄付をすることができました。翌年からは医師、がん患者さんやその家族、友人が数人ずつのチームを組むリレー形式となり、24時間歩き続ける中で、参加者の間にがん闘う連帯感が生まれたのです。単なる資金集めのイベントとしてではなく、地域社会全体でがん闘うための絆を育む場としてリレー・フォー・ライフは大きく広がり、現在では全米500カ所以上、世界20カ国以上で行われるようになりました。日本でも、2006年9月に茨城県つくば市で第一歩を踏み出し、現在では全国30カ所を超す地域で開催しています。

川越のリレー・フォー・ライフは、“ひとりじゃない”をテーマに掲げ、一人で苦しんでいる方でも気楽に立ち寄れる「場」となることを目標に、どこにも気持ちを打ち明けられずにつらい思いを抱えている方が、安心して語ることでできるイベントを作ろうと発足したそうです。参加団体は30を超え、約2000人の方が共に歩きました。医療従事者やがん経験者、遺族の方や、学生さんなど、少しでもがんに関心を持っている人たちが集まり様々なチャリティー活動を行い、その思いを共有しました。

本会も、51名という多くの会員の皆さまに参加ご協力をいただき、24時間共に歩き、チャリティー活動を行いました。

本会の活動内容としては、東日本大震災(東北地方太平洋沖地震)被災写真の展示やパネルを使用しての医療画像展・放射線被ばく相談、乳がん検診説明会(講師:埼玉医科大学総合医療センター中央放射線部 石田 直之氏)、CTコロノグラフィ説明会(講師:埼玉医科大学総合医療センター中央放射線部 清水 隆広氏)などを行いました。またかき氷を配ったり、子供向けの水ヨーヨーつりなども行い、42,667円を日本対がん協会に寄付しました。この寄付金は、若手医師の奨学金、がん検診受診率向上の手助けなどや、今年も昨年に引き続き、被災地がん患者さんへの支援にも使われます。

初日は、途中でにわか雨も降りましたが晴天に恵まれ、また、ルミナリエ(がんで亡くなられた故人に思いをはせ、紙袋にメッセージをしたためます)に書かれている言葉にも勇気付けられ、私たちは昼夜交代で24時間襷(たすき)をつなぎ、感動のラストウォークを迎えました。

今年も、少しでも役に立てればという思いで参加しましたが、逆にサバイバーの方々と触れ合う時を共

有することで、“よしあきらめない”“よしがんばろう”という勇気とあたたかみをもらいました。本会は来年以降も、この思いを胸に少しでもイベントの手助けになるよう、微力ではありますが、貢献していきたいと考えます。

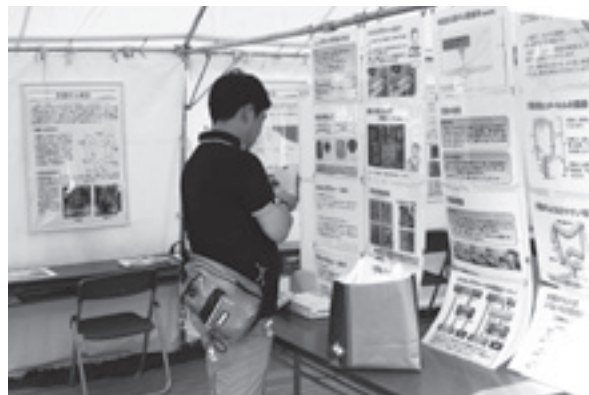
最後に、お忙しい中このイベントの趣旨に賛同し、ご協力をいただいた会員の皆さまに、紙面をお借りして厚くお礼申し上げます。



（“さあ！頑張って24時間歩くぞお〜”）



（“おいしいかき氷は如何ですかあ〜”）



（よしっ！準備は万全っ！）



（会場）



（会場）



（エンプティータブル：がんで亡くなられた方を悼むセレモニー）



(腹へったあ～)



(疲れたあ～、ちょっと休憩)



(夜も元気に頑張ります!)



(早朝もさわやか笑顔で歩くよ!)



(会場)



(皆さま、お疲れ様でした! イエ～イ)